

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 翔洋会	代表者	松山 正春	法人・ 事業所 の特徴	岡山市南区藤田にH19年に特養の併設施設として開設された平屋建ての施設。昔から農耕が盛んな地域であり、周りは今も田園地帯でのどかな環境。交通量もほとんどなく静かな場所に立地していて気候が良い日には施設外周を散歩でき運動にも最適な所です。
事業所名	藤田荘小規模多機能 居宅介護事業所	管理者	岩崎 幸恵		

出席者	コロナ禍のため書面にて報告を行い、意見を返信してもらう方式で実施
-----	----------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	できていない部分に関しては皆で共有を図り、改善策を行動に移す。	月1回のカンファレンスやその都度話し合いで対応する。 →行動した結果を記録に残し、口頭でも伝える。	常勤の職員だけではなく、非常勤の職員も参加でき、話し合える環境を検討してはどうか。 改善策が達成可能な計画かどうか判断できないとの意見があった。	情報の共有ができることで、より深く利用者、家族のことを理解できるようにし、状態にあった支援を行えるようにする。(具体的な内容にする。)
B. 事業所の しつらえ・環境	感染症対策を踏まえて環境整備の再確認をする。 気軽に立ち寄れる雰囲気づくりをする。	感染対策をその都度検討し、実施していた。 閉鎖的にならないように意識した。	コロナ禍のため、来所出来ないことで、「わからない」との意見が見られた。	引き続き感染症対策を行いながら、安全安心して過ごしてもらえる環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	感染症の感染状況を踏まえて、地域の活動計画を確認し、公民館活動にも参加できるようにする。	地域活動、公民館活動の把握ができず参加することができなかった。 感染症対策をしながら、施設周辺を散歩したりした。	コロナ禍のため、参加出来ないことで、「わからない」との意見があった。	引き続き感染症の感染状況を踏まえて地域の活動を知り、関りを検討していく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	社会参加が続けられるよう外食や地域行事などへの参加の機会を設ける。	コロナ禍のため地域に出向くことが出来なかった。本人の住む地域の人と情報の共有をする機会を持つことができたケースがあった。	感染予防のため地域との関りが難しくなるのは仕方がない。	引き続き感染症の感染状況を踏まえて本人の住む地域との関りを検討していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	個人情報の課題はあるが、言える範囲で情報を共有し検討を行う。	運営推進会議が開催されず書面のみでの開催であったため、取組みができず。	事業所の現状が伝わりにくく、「わからない」との意見があった。	引き続き感染症の感染状況を踏まえて書面開催か集合開催かを柔軟に対応する。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災訓練を実施する際は近隣住民に声をかけ、一人でも参加して頂けるようにする。	感染症対策のため地域の方に声かけができず。事業所職員だけでの実施を行った。	地域における防災訓練などに声をかけてもらう。	防災訓練に感染症が流行していることを想定したマニュアルを作成する。